

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

トビイロウンカ第二世代幼虫の防除の徹底について

早植え及び普通期水稲におけるトビイロウンカは、現在のところ平年よりやや少ない発生ですが、今後、第二世代幼虫の出現する時期となり、発生が増加する可能性もあり、圃場での今後の発生に十分注意する必要があります。

については、被害を出さないために下記事項を参考に、**防除を徹底**してください。

記

1. 発生概況等

- (1) 早植え水稲における巡回調査では(8月5日)、発生を認めていない(平年4.6%、前年8.0%)〈±～+〉。
(図1)
- (2) 普通期水稲における巡回調査では(8月1～5日)、寄生株率0.1%(平年2.7%、前年3.9%)であり、平年及び前年よりやや少ない(図2)。〈-～±〉
- (3) 農業試験研究センター内の無防除田における調査では(8月12日)、1株あたり寄生頭数は0.1頭(前年8月18日調査 同値2.8頭)であり、前年よりやや少ない。〈-～±〉
- (4) 農業試験研究センター内の無防除田では、ほぼ発生予想パターン図どおり経過しており、今後、第二世代幼虫が出現してくると考えられる。(図3)
- (5) 福岡管区气象台が8月7日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報では、トビイロウンカにとって並発生の気象条件となっている。

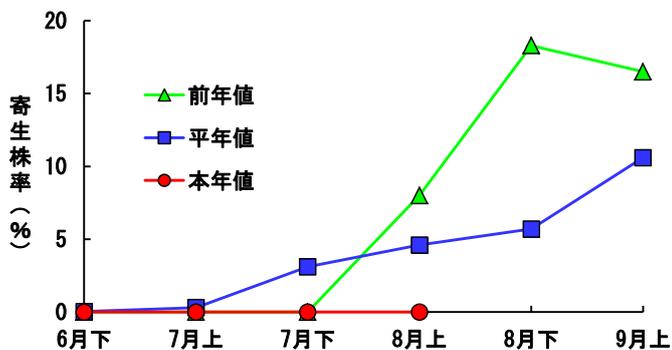


図1 早植え水稲におけるトビイロウンカの発生推移

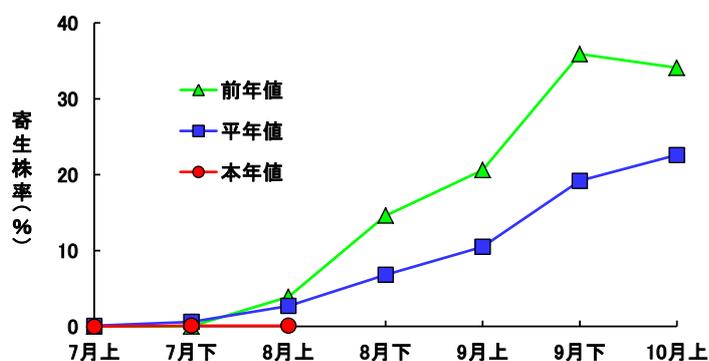


図2 普通期水稲におけるトビイロウンカの発生推移

2. 防除対策

- (1) **今後の防除適期である第二世代幼虫ふ化揃い期は8月中旬～下旬頃と予想される(図3)。**必ず圃場における幼虫の発生状況を調査し、適期防除を徹底する。
- (2) 本種は株元に生息しているため、**薬剤は株元にむらなくかかるように**、朝夕の風のない時に十分量を丁寧に散布する。
- (3) 本種の生態や防除対策の詳細については、「平成22年11月作成トビイロウンカの生態と防除に関するQ&A」^{注)}を参照のこと。

^{注)} 農業技術防除センターのホームページ(<http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo.html>) トピックスに掲載中。

図3 トビイロウンカの発生予想パターン 第4版 注(4)

(平成26年8月12日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- 7月4日と7月14日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(8月11日までは今年の実績、8月12日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
圃場への定着は、7月14日の飛来波の方が多いと考えられる。
- 防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。**
- 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。
- 最新の気温で再計算した結果、発生予想パターン第3版(7月25日作成)と比較して、今回の第4版は、7月4日飛来の第2世代のふ化及び羽化が1日、7月14日飛来の第2世代の産卵及びふ化、第3世代の産卵及びふ化がそれぞれ1日早くなった(8月上旬の最高・最低温度が平年より低く推移したため)。

参考：ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横 
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ 
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色(体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ 